

京都・大阪・兵庫のホテルの稼働率の推定

とホテルプランの人気要因分析

同志社大学理工学部数理システム学科 津田博史

千葉工業大学社会システム科学部 安藤雅和

1. はじめに

最近、観光庁によると2013年に訪日外国人観光客数が1000万人を超え、2014年には大阪万博以来、旅行収支が黒字となった。関西圏では2012年以降、関東圏を上回る水準で訪日外国人が増加している。この現象は関西に魅力的な観光都市が多く存在することに加え、円安に起因する格安航空会社の就航増による訪日外国人の増加が背景にある。一方、昨今、ネット社会が急速に広がる中、cyber worldを利用したビジネスが急速に拡大してきており、各旅行会社が企画・運営している旅行プランに満足できず、旅行会社に企画してもらうのではなく、自分でインターネットを利用して旅行プランを立てる人の数が増加してきている。このような人々は「個人旅行者」と呼ばれ、個人旅行者の多くはインターネットを利用して宿泊場所や宿泊プランの予約を行いつつある。今後のIT産業の発展を考慮に入れると、このようにインターネットを通して宿泊予約をする個人旅行者の数が増加することが予想される。

そこで、本研究では、分析対象として世界的な観光都市である京都をはじめ、近畿圏の主要地域である大阪、兵庫のホテルを代表とした宿泊施設に焦点を当てた。Webサイトから収集した各地域内の宿泊施設の宿泊プランの空室数と価格のデータを用いて、地域毎の宿泊施設の客室稼働率と市場規模を日次で推定することを試みた。推定した客室稼働率と市場規模から各地域の季節変動や曜日効果などを見出したと共に、地域毎の宿泊市場の規模に関して新しい知見が得られた。

2. 日次稼働率の変動要因分析とホテルプランの人気要因分析

地域毎の宿泊施設の日次稼働率がどのような要因で変動するかを回帰分析により調べた。地域毎の日次稼働率の要因分析に関して、観光庁が発表している月次稼働率では推し量れない「曜日効果」、「イベント効果」、「エリア特性」などより詳細な変動要因を把握することができた。また、ホテルプランの人気要因を調べる方法としては、宿泊者が実際に購入したホテルプラン価格を通して、どのようなホテルプランに人気があるのかを分析した。類似した内容のプランオプションにおいても地域により価格に対して逆の作用があるなど有意義な知見が得られた。発表の最後に観光政策・ホテル経営に対するWebデータの応用可能性と課題についても述べる。なお、本研究は、大学共同利用機関情報システム研究機構北川源四郎機構長、国立情報学研究所曾根原登教授、新領域融合研究センター藤裕特任研究員、千葉工業大学安藤雅和准教授との共同研究である。

参考文献

- 1) 山本, 津田(2015): 京都市のホテル業界における日次稼働率と経済規模の推定, 同志社大学ハリス理化学研究報告 56, 29-40.